

# この子らと

第6号平成30年10月

## まことの保育



お月見だんご

鹿児島竜谷学園和光幼稚園



園長 川口公男

### 組体操の練習



### 年少組かけっこの練習



## 子どもたちの可能性を信じて

7日(日)は運動会、職員も、かけつけてくださった保護者みなさまをはじめ多くのみなさまもまた子どもたちから「感動」というプレゼントがもらえる一日です。

年少少組の子どもたちは、初めての運動会です。年少少組の子どもたちの行進も見ものです。最後の運動会の年長組は組体操に頑張っています。それぞれの学年の子どもたちが自らの可能性に挑戦しています。練習の姿を見ても感動しています。

## 十五夜のつどい



日本の秋の風物詩「十五夜」を子どもたちと楽しみました。読み聞かせグループのクレパスのみなさまのパネルシアターの後、満月のような真ん丸のお団子を作り、おいしそうに食べていました。

十五夜の夜は、縁側やベランダ等に月見台に月見団子や里いも、果物などをお供えして、月が見られるのを家族みんなで待ちました。そして、中秋の名月を楽しむのが昔から続いている十五夜の楽しみ方です。

鹿児島市内の住宅事情ではそれが難しくなっているのではとも思います。

できる範囲で、日本の風物詩を子どもたちに体験させていけたらいいですね、



## 親の立つ位置

歌手である五木ひろしさんの言葉です。

父さんは、じっと見守り、母さんは、心で泣いてしつけてくれました。

「じっと見守る人」、「心で泣いて厳しくしかる人」がいて、一人の子どもを育てることができ  
ます。・・・

子どもは、親を尊敬するようには生まれついていない。尊敬することを学んでいくと言われます。

子どもの前では、絶対に夫婦げんかはしないことが子育ての一番目とか。夫婦げんかは、子どものいないところでコソコソとすることが子育てのこつらしいです。

職員もまた同じです。「見守る人」、ときには「心で泣いて叱る人」とバランスのとれた教育・保育ができるようになるように日々、精進努力です。

## 100年前の家庭の心得

- 教育は、家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、世間の教えで実を結びます。
- 叱るにも「ほど」があり、可愛がるにも「ほど」があります。

現在にも十分に参考にできる心得ですね。

## 読書の秋

「本を読むこと、それは、人の心の痛みや悲しみ、悩みや喜びがわかる人になるということです。」

幼児期の脳は、3歳までに成人の80%、6歳までに90%と著しく発達します。

農が発達する幼児期には、特に感情を豊かにしたり、想像力を高めたりする絵本の読み聞かせが大切だと言われています。

お母さんから聞こえてくる言葉と絵を見ながら子どもは頭の中の想像力が高まっていくのですね。

“ぜひ、お子さんに絵本の読み聞かせを”

--	--